

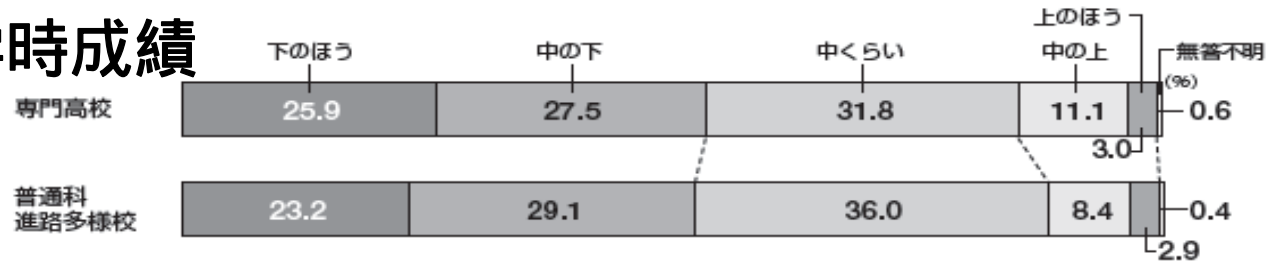
専門高校の現状

都立専門高校調査の概要

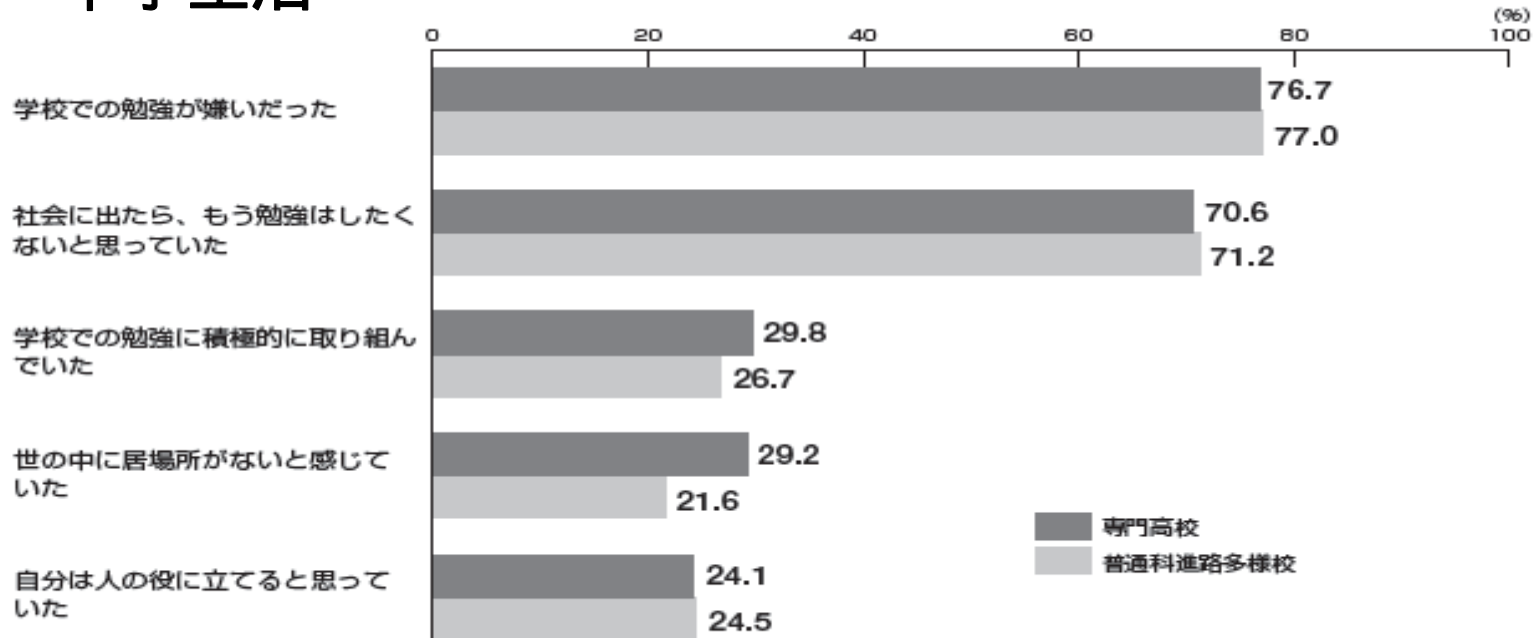
- 調査対象：都立の専門高校17校(工業科9校、商業科4校、農業科2校、その他の学科2校)および入試難易度が同程度の普通科高校3校の高校2年生(入試難易度は学習研究社『2009年入試用 都立に入る!』を使用)。
- 調査方法：教室内での集団自記式。
- 調査時期：2008年10月下旬～12月中旬
- 有効回答数：2830名。ただし、分析に先立ち、サンプルが母集団である都立専門高校生の縮図となるように再サンプリング。
分析サンプル数：工業科678名、商業科571名、農業科151名、その他の学科301名、普通科453名、合計2154名。

中学時の状況に差は小さい

中学時成績



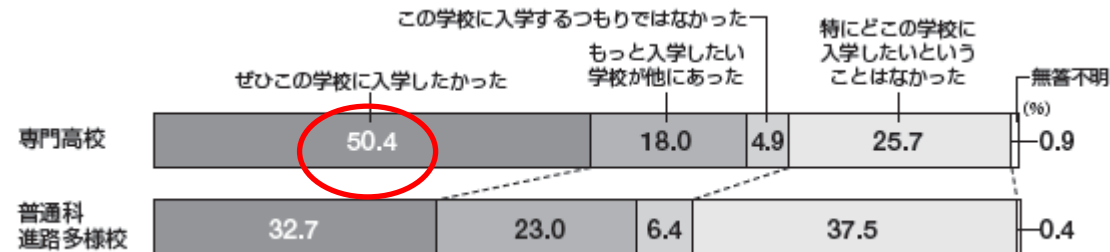
中学生生活



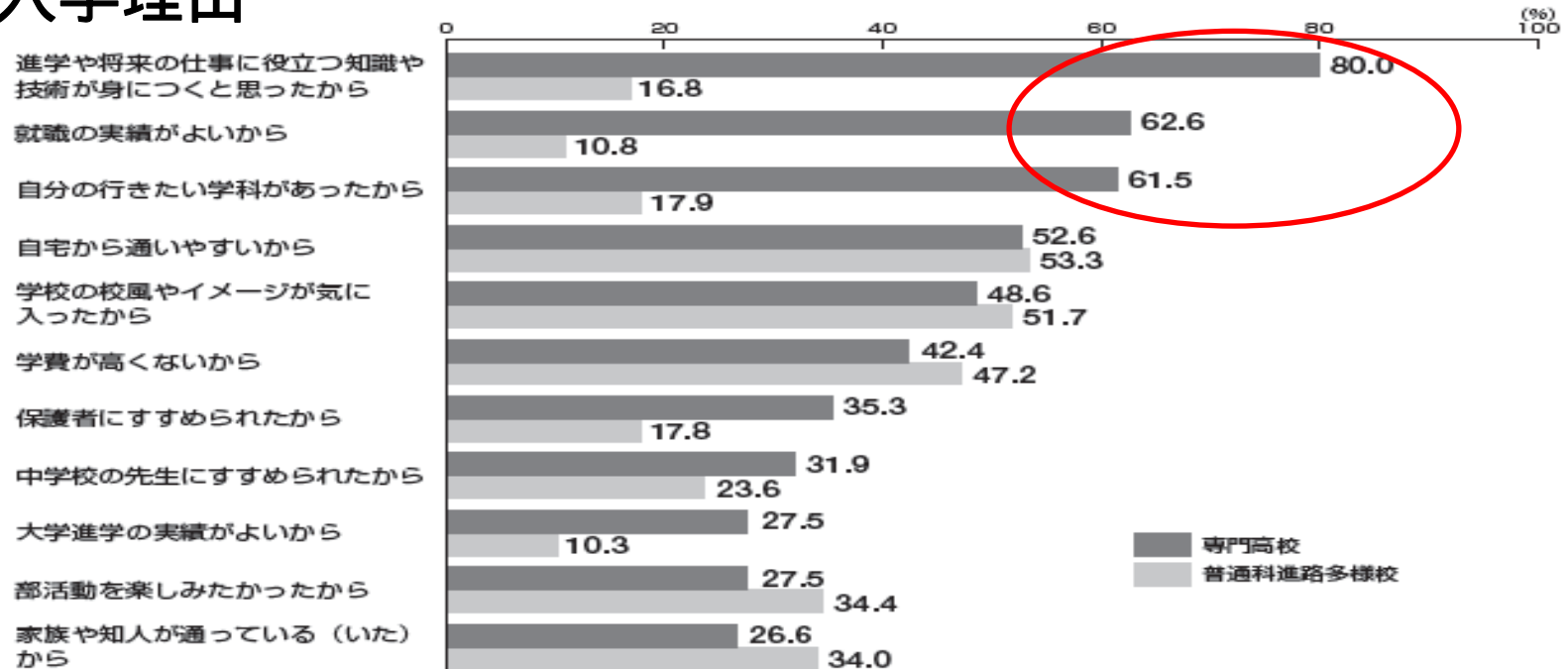
注) 「とてもあてはまる」 + 「まああてはまる」の%。

専門高校で積極的進学が多い

入学希望



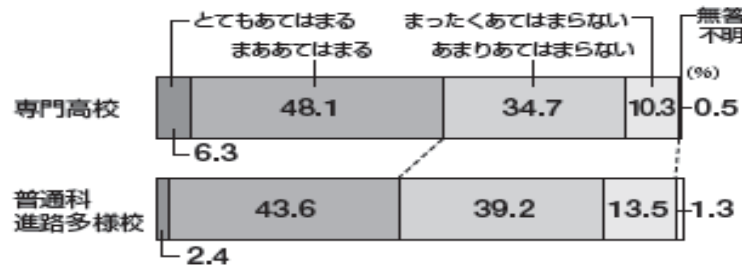
入学理由



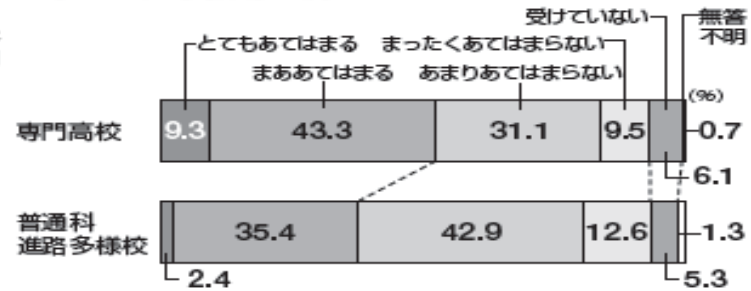
注) 「とてもあてはまる」 + 「まああてはまる」の%。

専門高校で満足度が高い

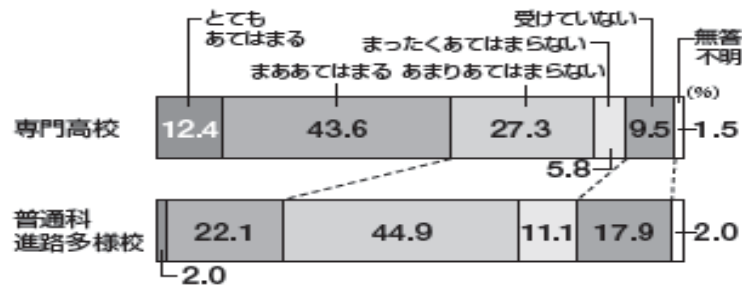
◆学校の授業に満足している



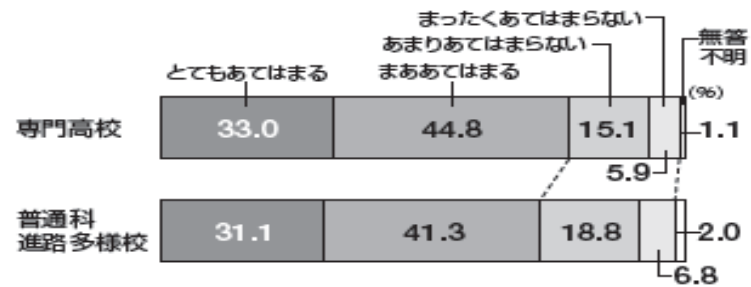
◆学校の進学指導に満足している



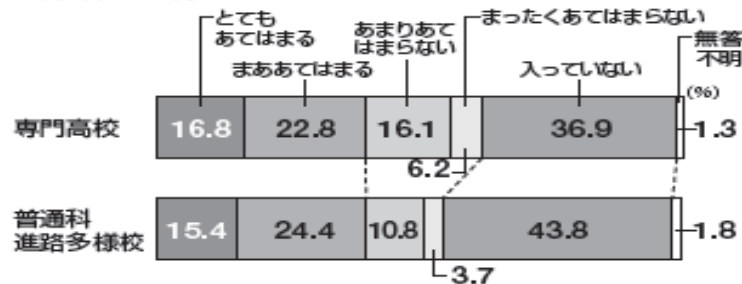
◆学校の就職指導に満足している



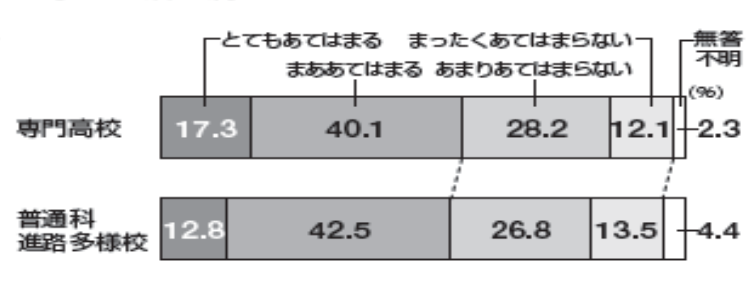
◆クラスの友だちに満足している



◆部活動に満足している

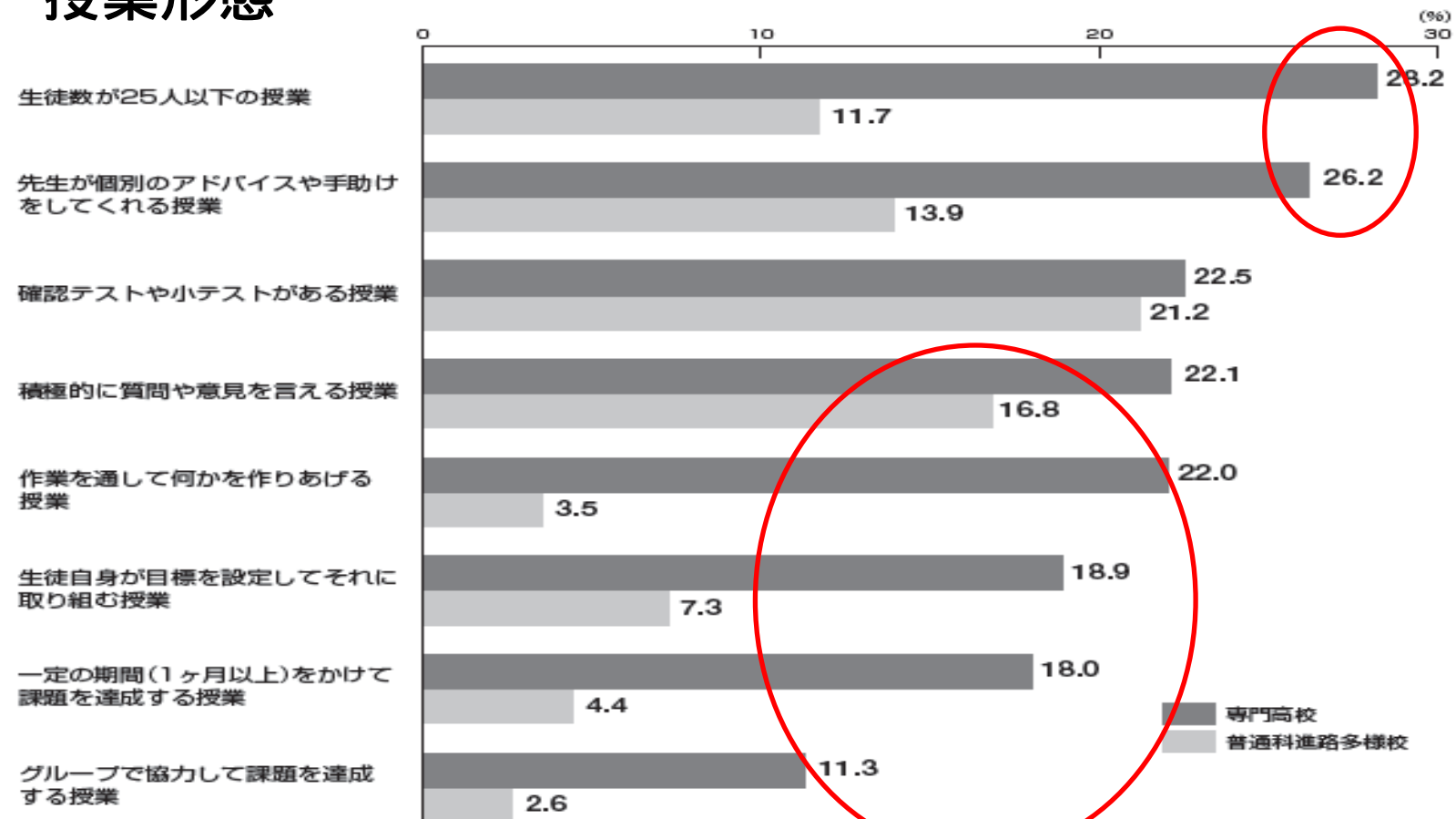


◆学校生活に満足している



専門高校できめ細かく実践的な授業が多い

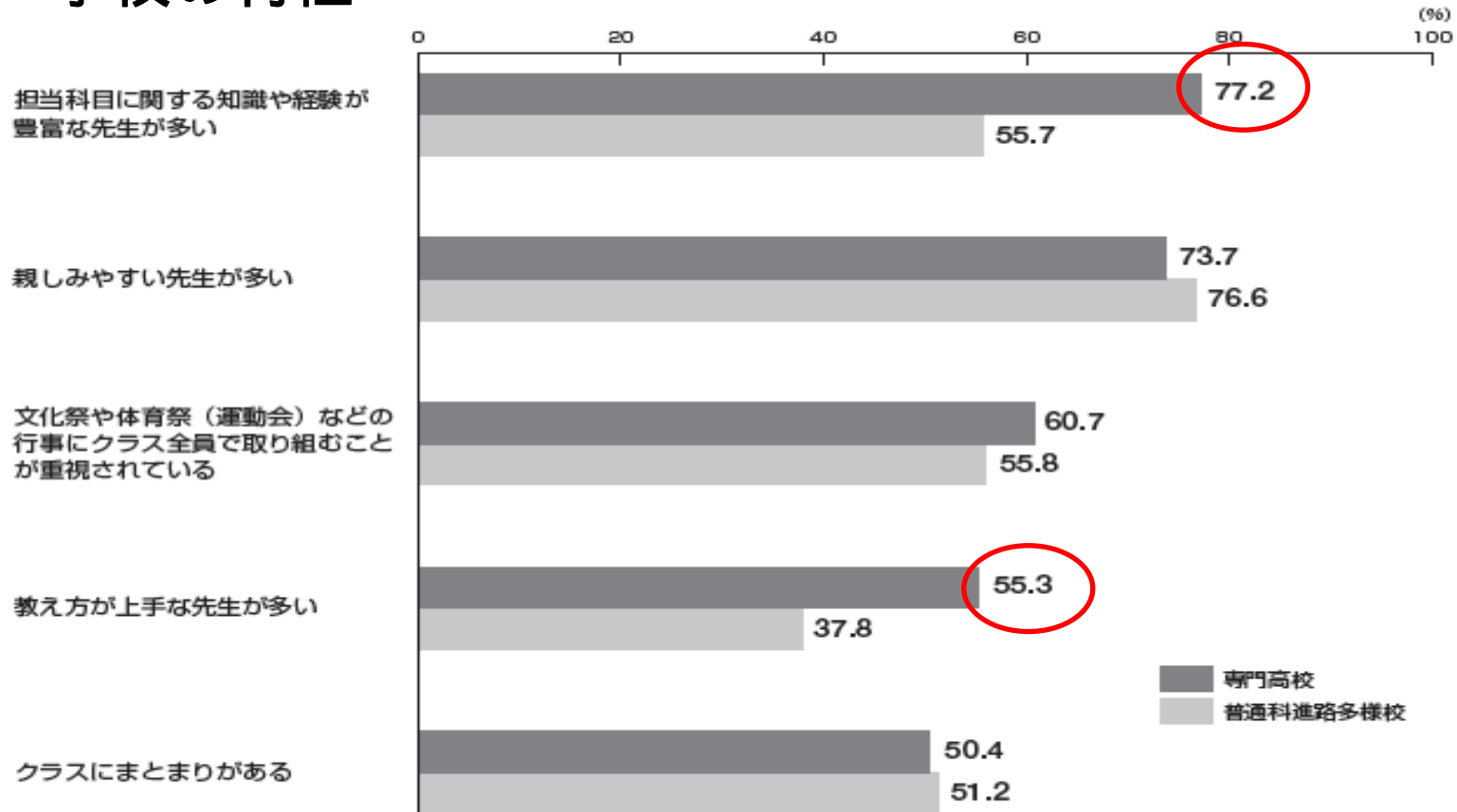
授業形態



注) 「ほとんどすべて」 + 「半分より多い」の%。

専門高校で教師への評価が高い

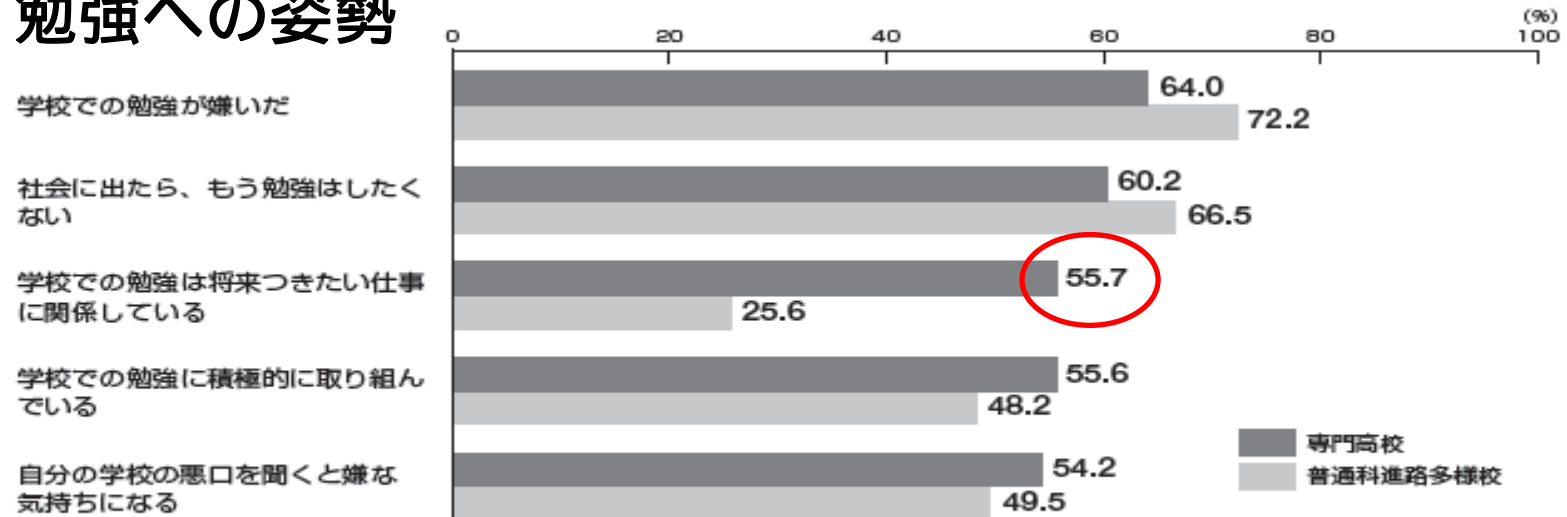
学校の特性



注) 「とてもあてはまる」 + 「まああてはまる」の%。

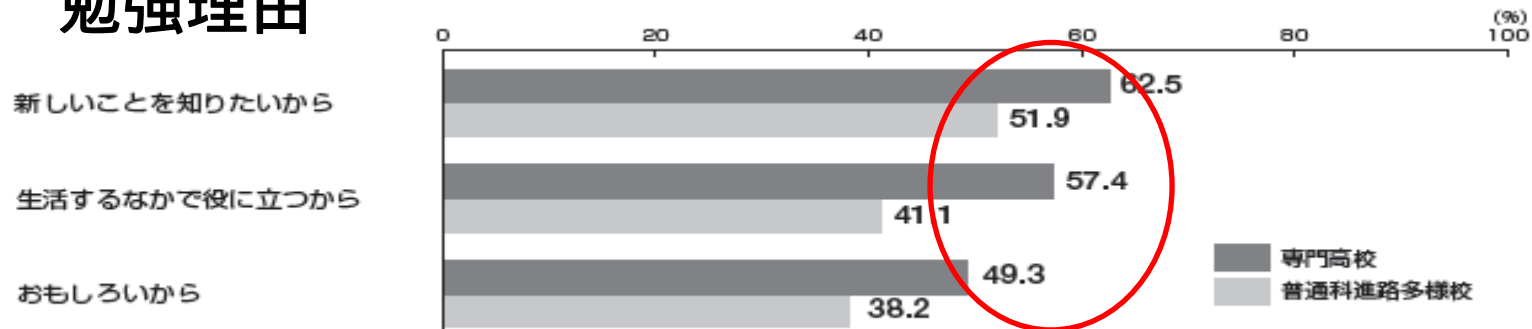
専門高校で勉強への積極性が高い

勉強への姿勢



注) 「とてもあてはまる」 + 「まああてはまる」の%。

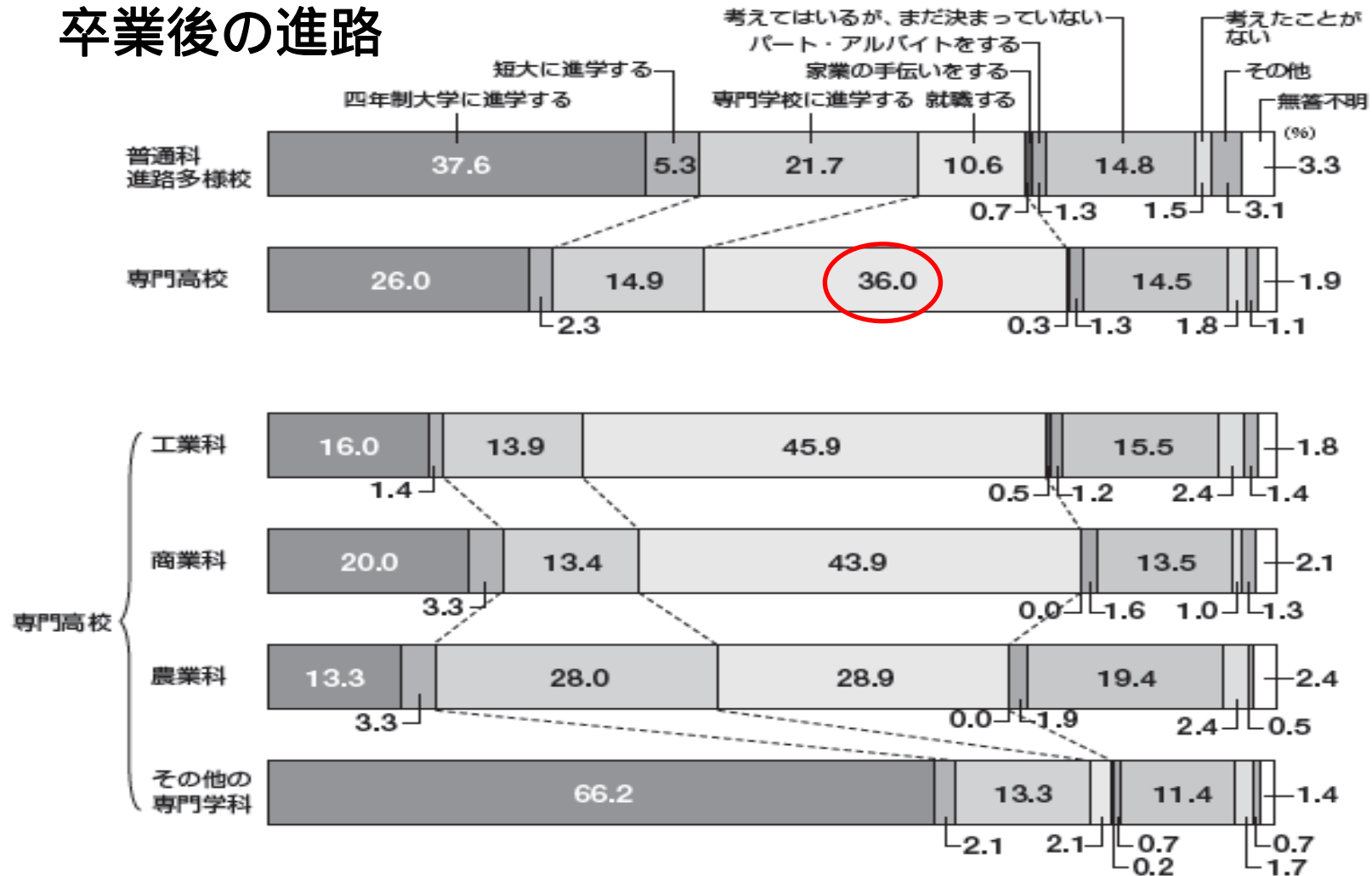
勉強理由



注) 「とてもあてはまる」 + 「まああてはまる」の%。

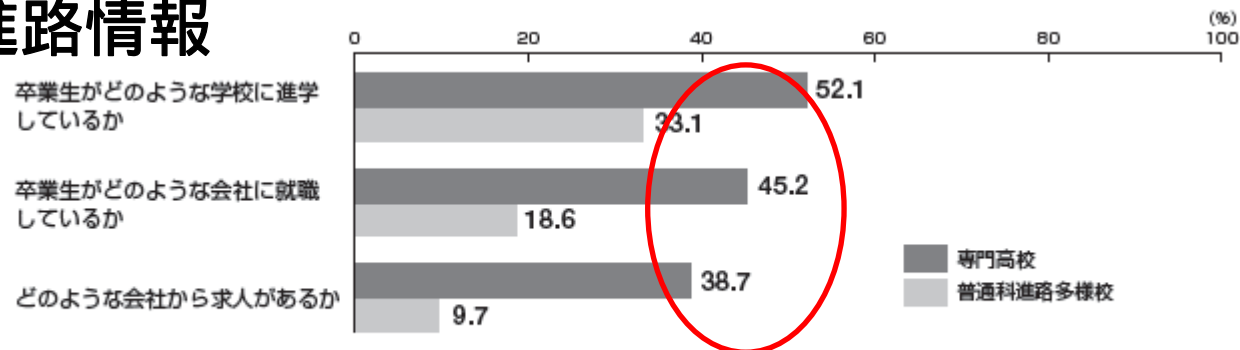
専門高校で就職希望が多い

卒業後の進路



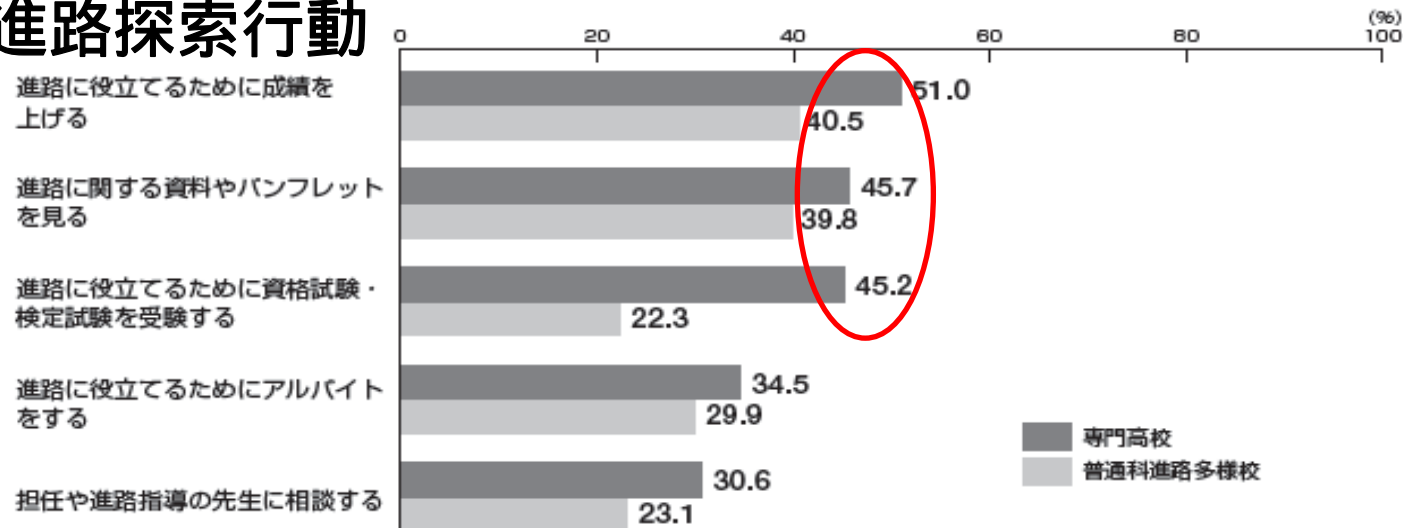
専門高校で進路情報や探索行動が多い

進路情報



注) 「よく知っている」 + 「まあ知っている」の%。

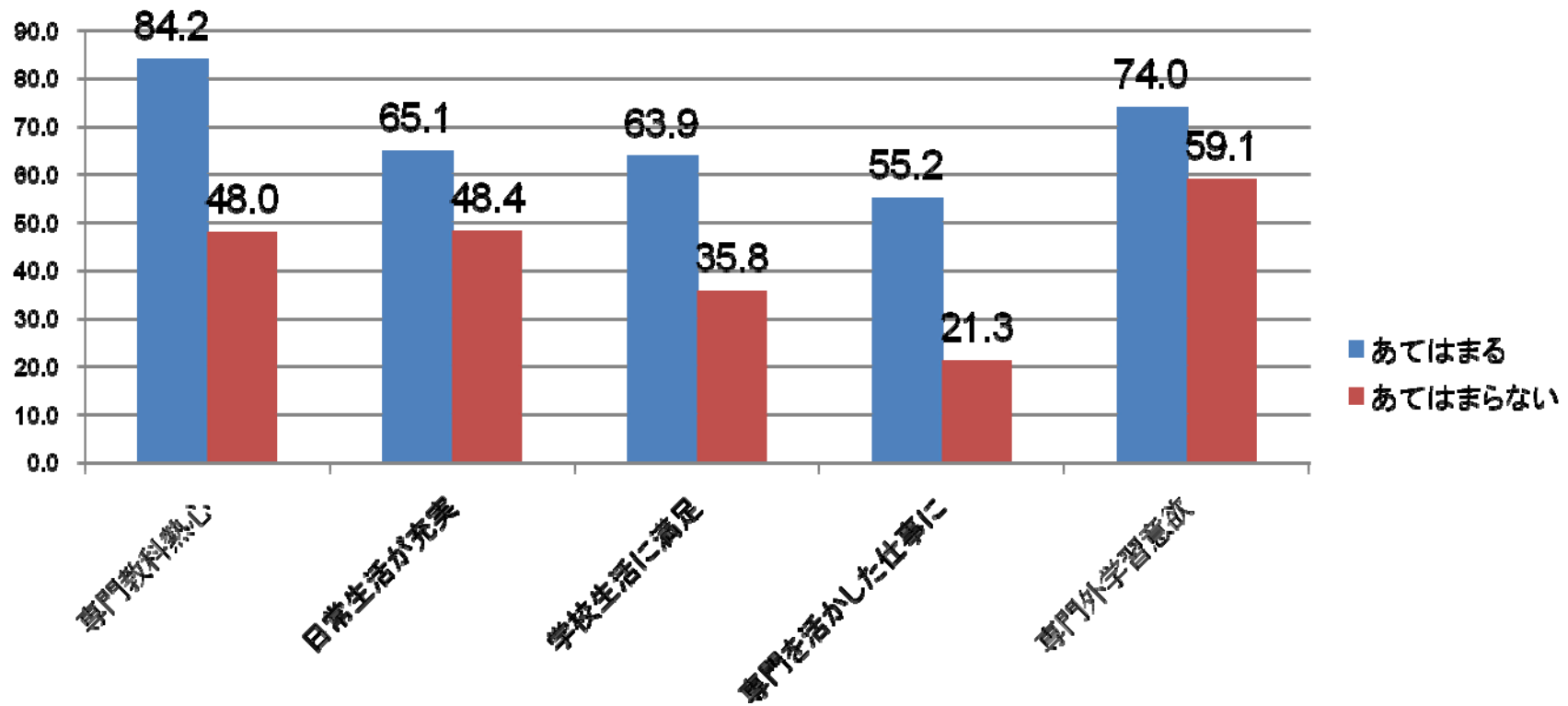
進路探索行動



注) 「とても積極的」 + 「まあ積極的」の%。

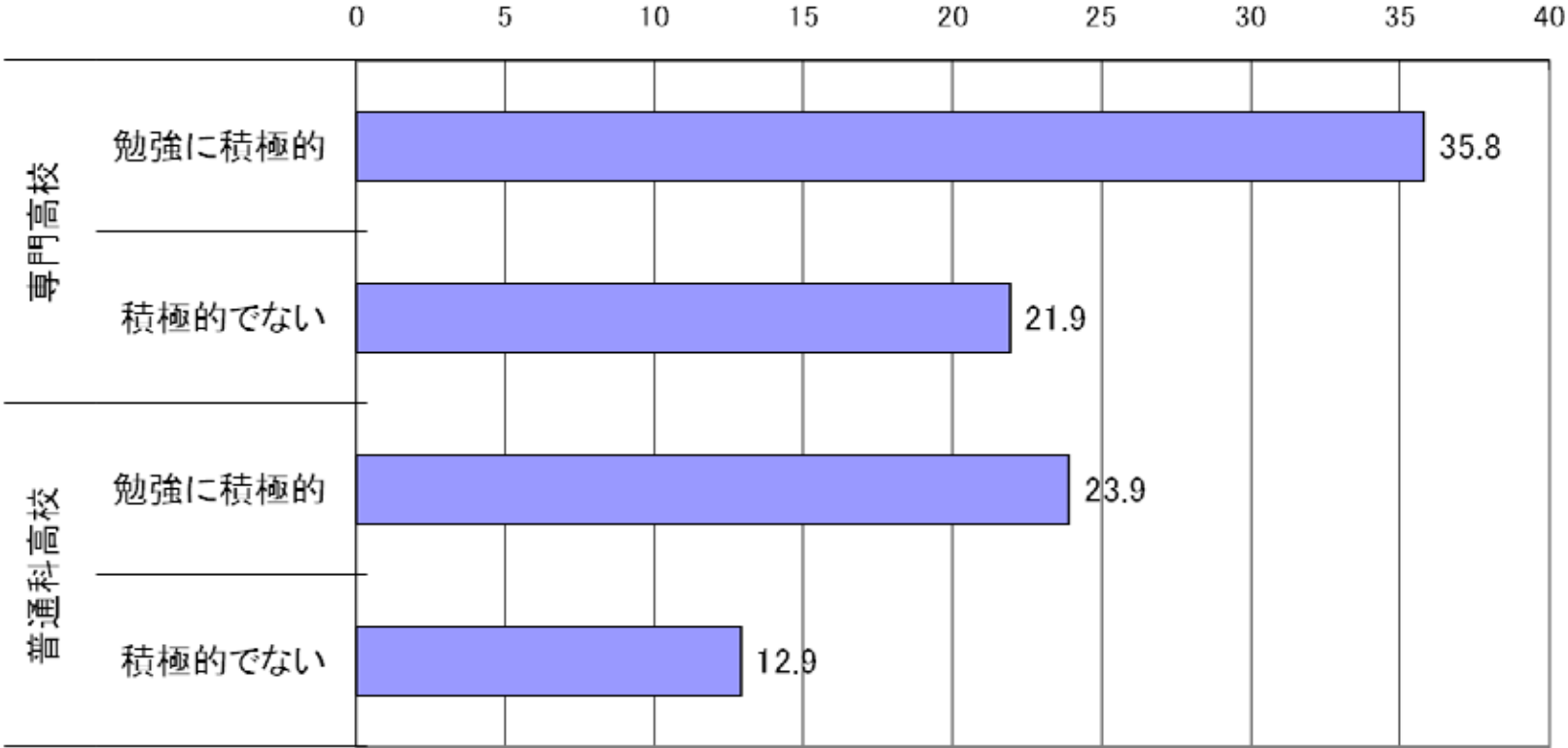
「専門性が今後の人生の支えになる」意識(専門高校生の8割)は多様な効果をもつ

「専門性が支えになる」意識の効果 (専門高校生)



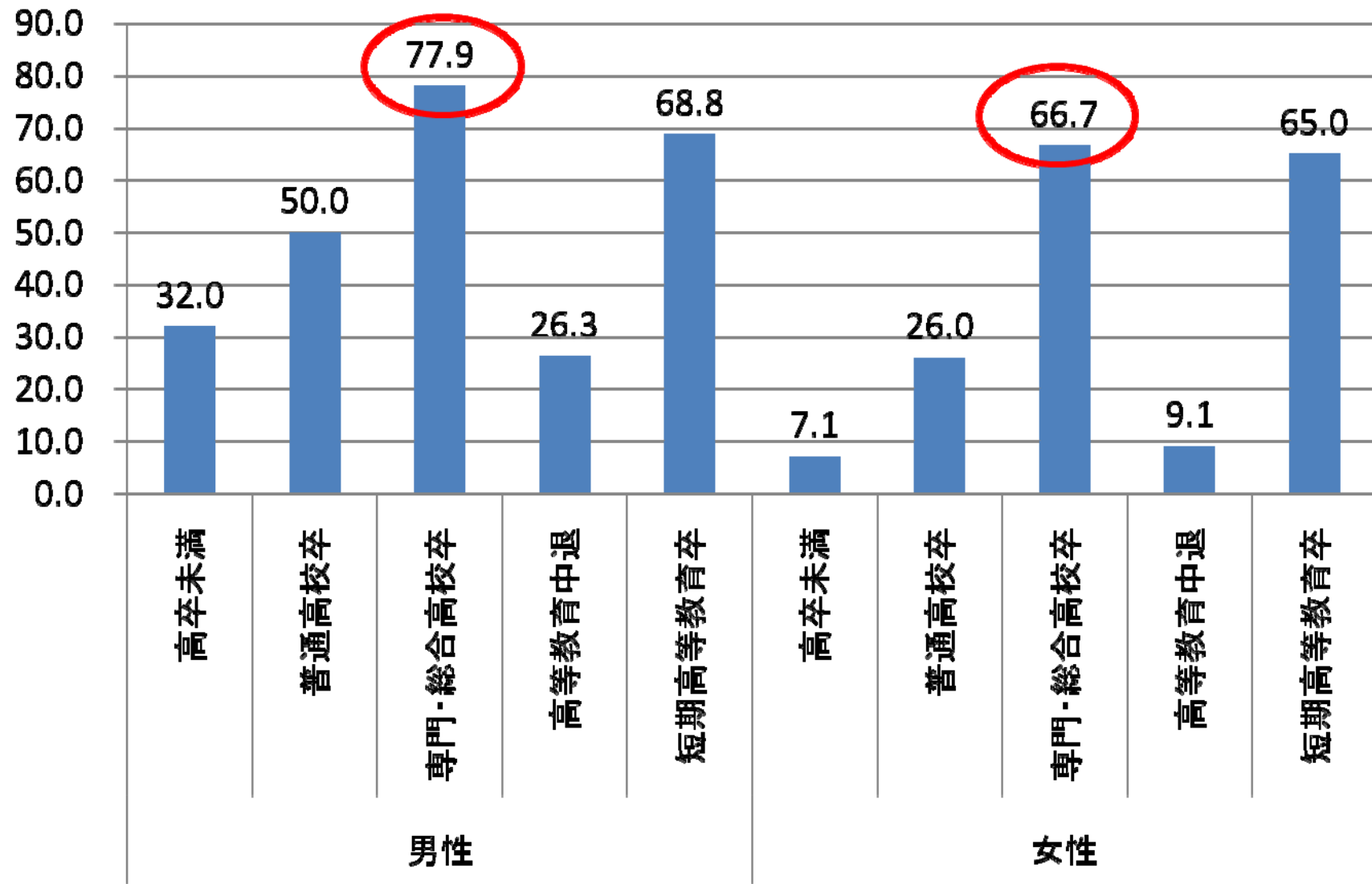
専門高校における勉強の積極性は政治的自立性(関心・参加意欲)の高さにも結びついている

専門／普通別・勉強への積極性別
政治的自立性が高い者の比率
(%)



分析: 堤孝晃(東京大学大学院博士課程1年)

学歴別 正社員比率 (20歳時点、2007年)

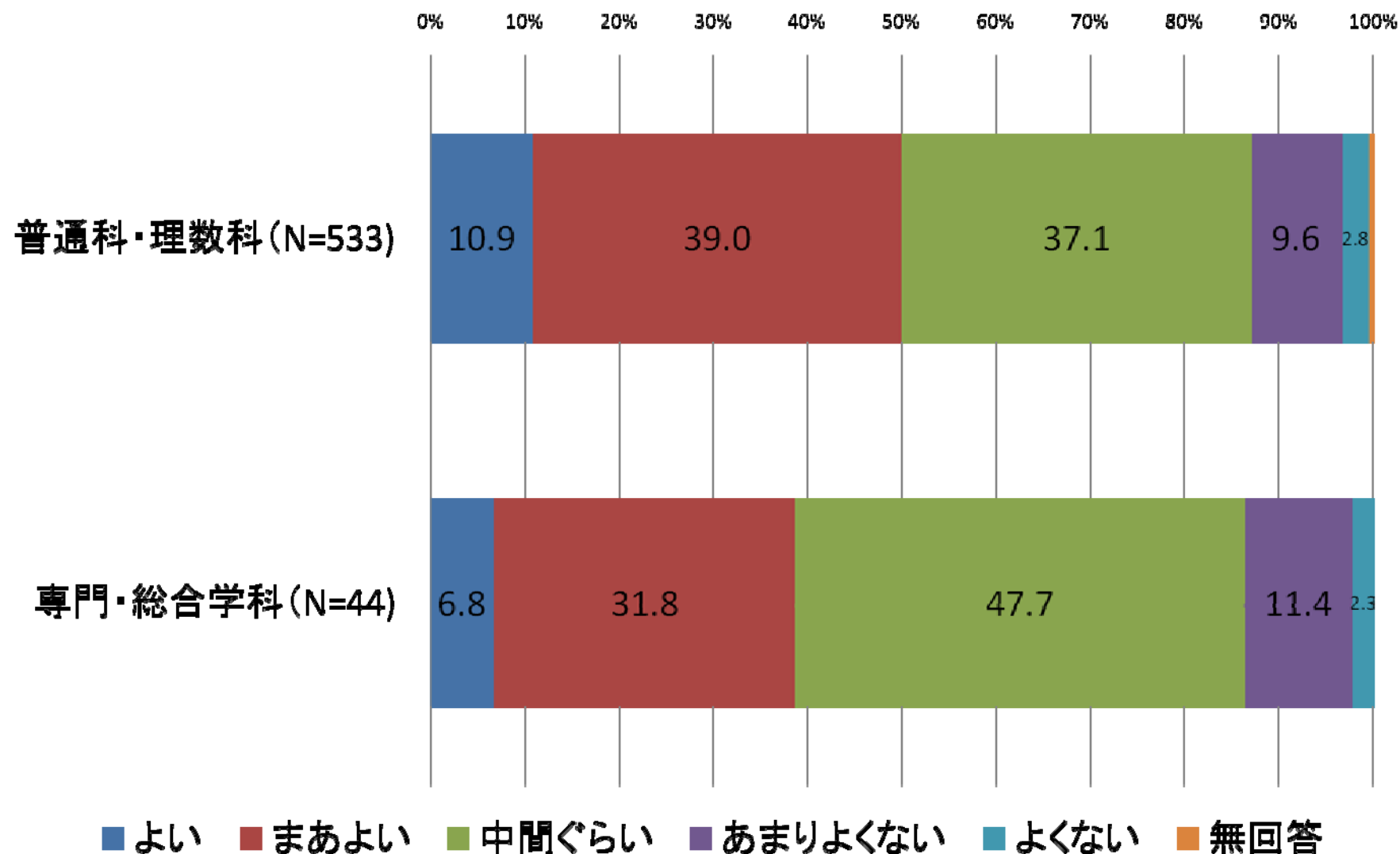


雇用形態・性別・学歴別 週当たり労働時間

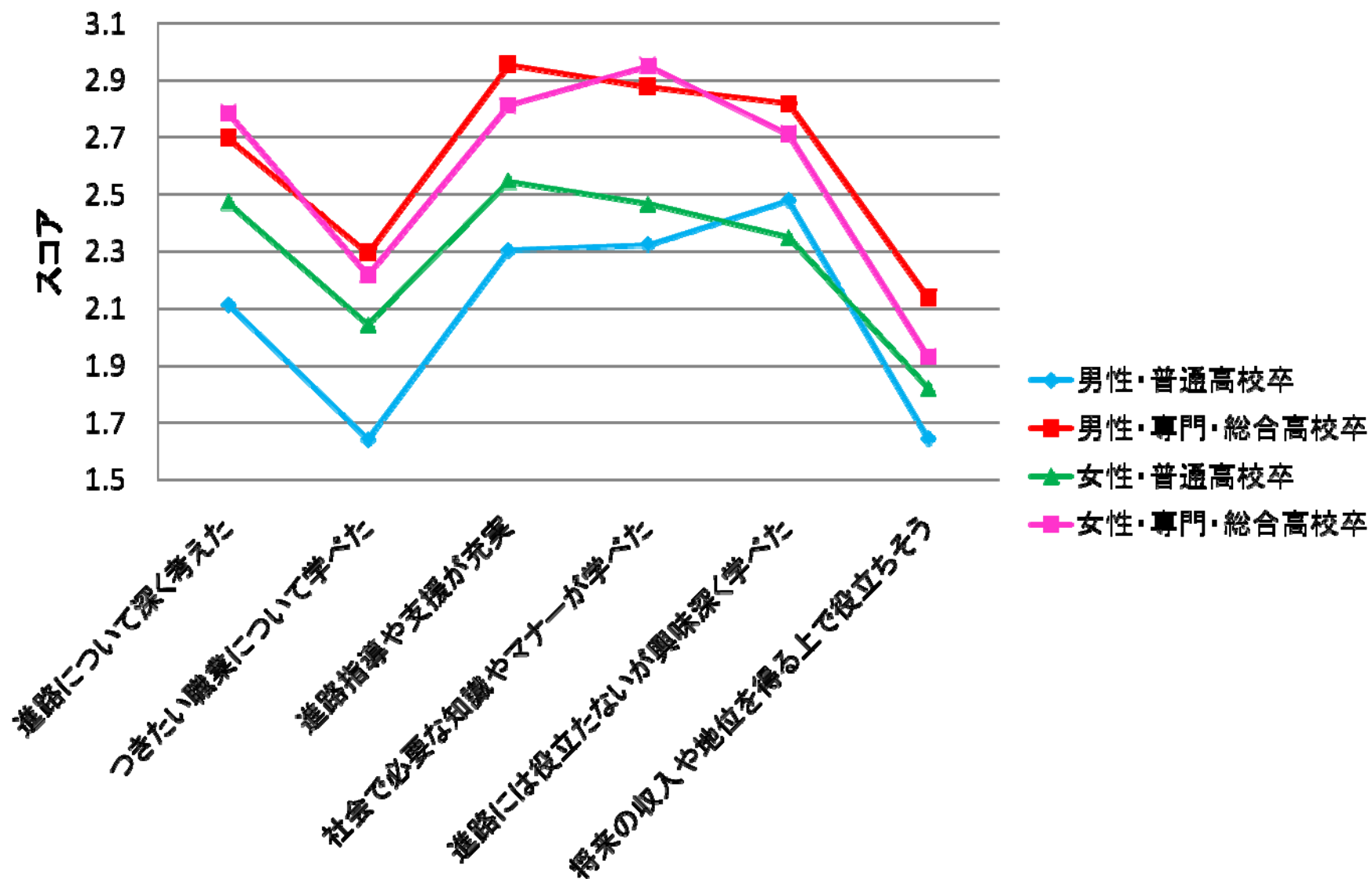
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



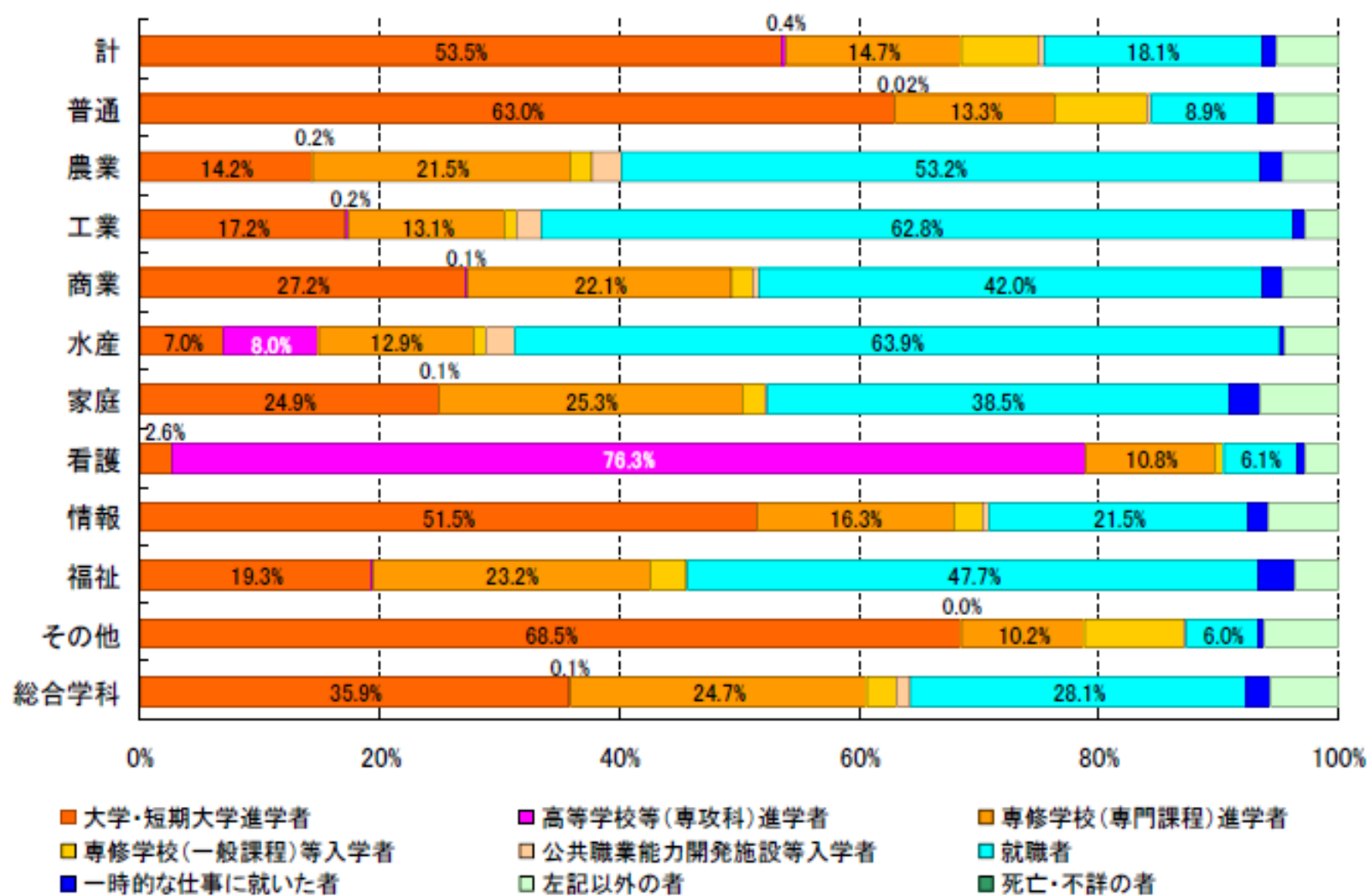
高校学科別 四年制大学での成績



性別・高校学科別 高校教育への評価



高等学校卒業者の進路別の割合（学科別）（平成21年3月）



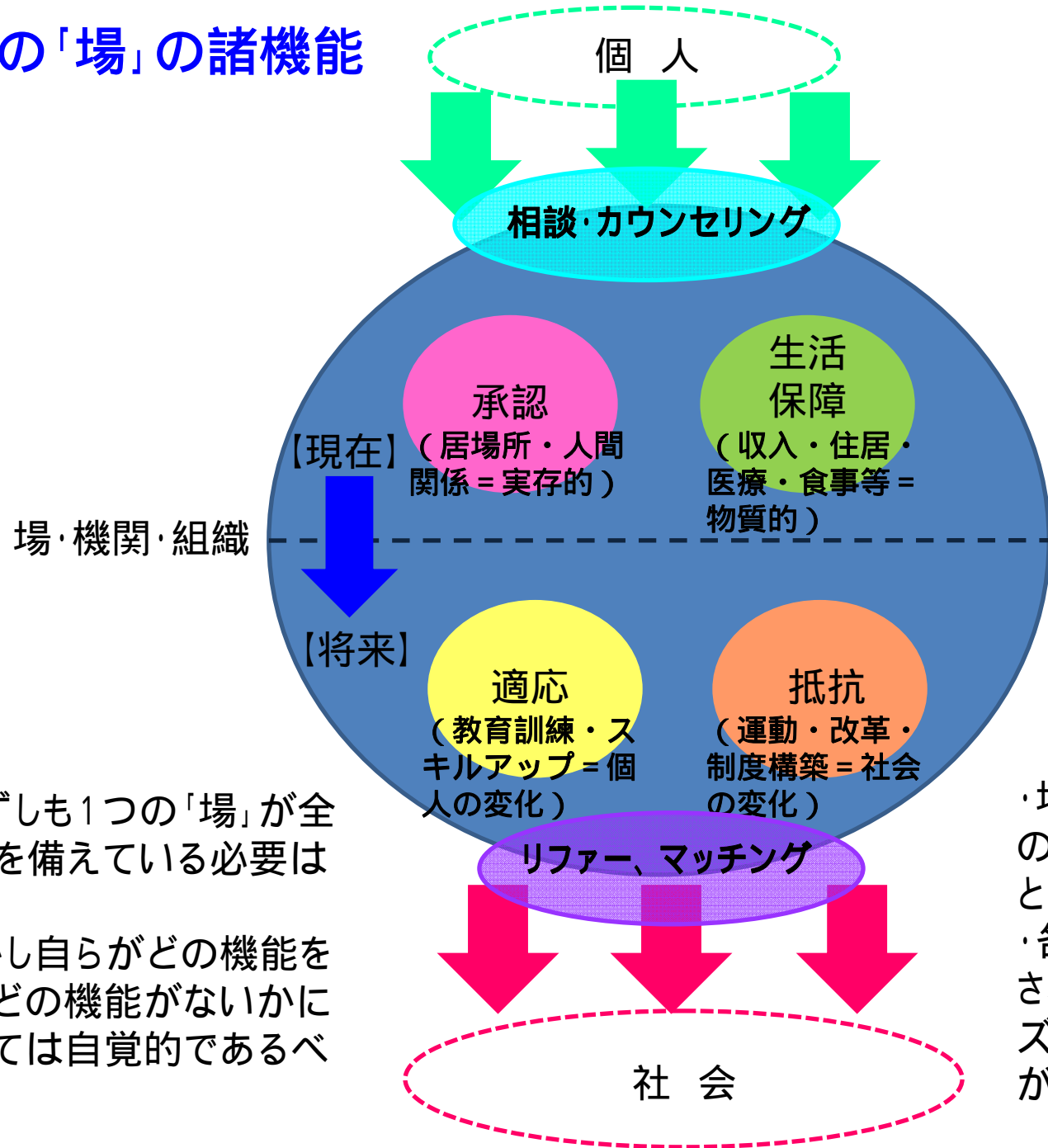
※ 全日制・定時制のみ

(出典)文部科学省「平成21年度 学校基本調査」

目指すべき若者支援の方向性

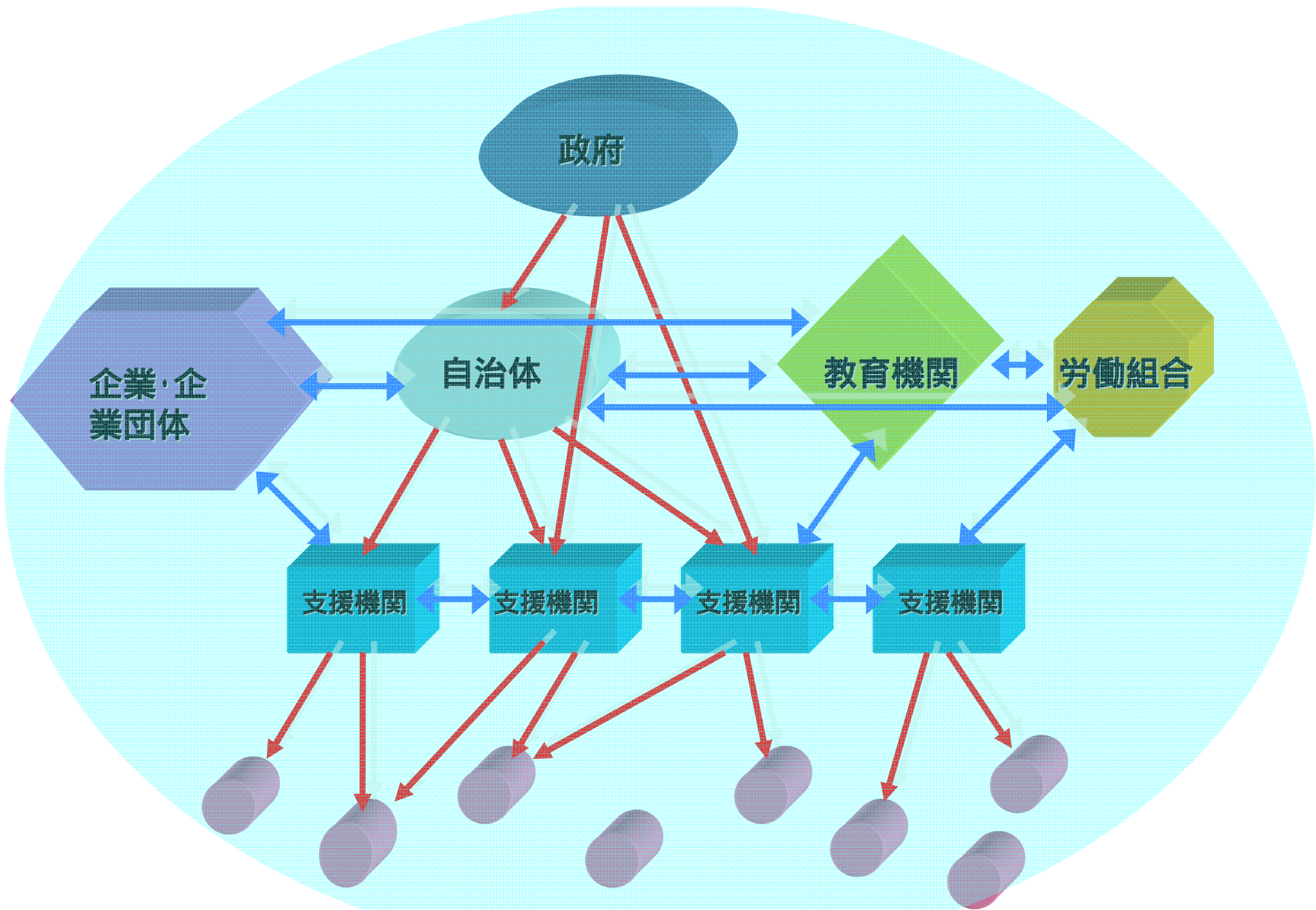
- 支援機関間のノウハウの共有と一定の標準化・機能分化へ (ex. 機関ごとの支援内容や主要対象層のマッピング等)
- 自分と社会への信頼の回復から職業能力の獲得、生活基盤(雇用、住居など)の確保まで、切れ目なくつながる支援へ ex. パーソナル・サポート・サービス
- 一律のルートでなく対象者の多様性に沿ったメニュー化へ (ex. 対人関係を必要としない仕事)
- 「例外的に困窮している若者」への支援から「誰でも当然受けられる」支援へ
- 社会の「中核部分」(ex. 教育機関、労組、企業 etc.) の巻き込みへ
- 「居場所」「受け皿」から「変革」(一部 広範囲)へ (esp. 企業の処遇のあり方)

支援の「場」の諸機能



・必ずしも1つの「場」が全機能を備えている必要はない
 ・しかし自らがどの機能を備えどの機能がないかについては自覚的であるべき

・地域単位ではこれらの機能が満たされることが望ましい
 ・各「場」の機能が明示されることにより、ニーズに即して若者自身が「場」を選択



支援を必要とする若者